



ウトナイスタンダード

～ 令和7年度版 ～

学習規律・生活規律・教室環境・授業づくり 指導ガイド

～ 夢をいだき未来を拓く
たくましいウトナイの子の育成をめざして ～



苫小牧市立ウトナイ小学校

学習規律・生活規律・教室環境・授業づくり 指導ガイドについての考え方

～一貫した指導を 6 年間通して行うために～

1 年生（入学時）は、学校生活における様々な行動についてきめ細かく指導しています。机の中の道具の入れ方、ロッカーの使い方、登校後の過ごし方、鉛筆の持ち方、座る姿勢など様々な指導を通して、子供たちは学校生活に慣れ、成長していきます。

しかし、学年が進むにつれてその指導が段々薄れていってしまったり、担任の思いや願いによってクラスごとに様々なルールや違いがあったりもします。そのためクラス替えがあると「去年の先生はそんなこと言わなかったのに、どうして？」と、困惑する子供も多くいました。

これらの指導の薄れや、クラス替えの度に起こる不安やギャップを可能な限り少なくするため、学校として最低限、身につけさせたいことを明確にし、子供たちがどの教室で勉強しても一貫した教育が受けられるようにする。

このことは教育の機会均等や学力の地域差・学級差の軽減だけでなく、先生方の指導軽減にもつながります。

このような考えから学習規律・生活規律・教室環境・授業づくり 指導ガイド（ウトナイ スタンド）を作成しました。ただ「やりなさい」だけではなく、「なぜそうするのか」を話して聞かせることで、自分の行為の意味を理解できるようになります。学校がチームとして共通した指導ができるよう、子供たちへの指導の目安として、ご活用ください。

この取組が中学校の3年間につながる基礎的な力になるとともに、義務教育9年間の連続的かつ系統的な取組になることをめざしていきます。

平成27年度 学力向上小中連携エリア会議『学習規律・生活規律指導ガイド』作成
平成31年度 教室環境・授業づくりを加え『ウトナイスタンド』として作成
令和7年度 『ウトナイスタンド～令和7年度版～』として改定

目次

I 学習規律

1. 学習用具
2. 学年で使用するノート
3. 机上整理
4. 発表のしかた
5. 座る姿勢
6. 鉛筆の持ち方
7. 宿題・家庭学習
8. 持ち帰る物・置いたままでもよい物の目安

II 生活規律

1. あいさつのしかた
2. はきものの入れ方
3. 机の中の整頓のしかた
4. カバンの入れ方
5. 登校後の過ごし方
6. 朝学習・朝読書の過ごし方
7. 準備（業間）の過ごし方
8. 教室移動のしかた
9. 給食時間の過ごし方
10. 中休み、昼休みの過ごし方
11. 各施設の利用のしかた
12. 登下校のしかた

III 教室環境

1. 黒板周辺
2. 教室掲示
3. ロッカーの上、フック上の白い棚の整理
4. 道具袋に入れる物・フックにかける物
5. 整理整頓

IV 授業づくり

1. 板書の基本
2. ノートの基本
3. 交流の場の設定
4. 音読のしかた
5. ICT（書画カメラ）の活用
6. 国語科の授業づくり
7. 算数科の授業づくり

V タブレット

1. 学校用タブレットの起動の仕方
2. 学校用タブレットでのeライブラリの入り方
3. タブレット使用の約束
4. 【家庭】タブレットを持ち帰ったら

I 学習規律

I. 学習用具（最低限必要な物） ※原則として、学習に必要な物のみです。

【筆箱】

- 必要なものをすぐに取り出せるもの。
- 形や材質は特に定めないが、必要以上に華美なものは避ける。
- 筆箱にストラップやキーホルダーなどはつけない。

【筆箱の中身】

- 鉛筆5, 6本（シャープペンシルは不可。）
- 青鉛筆（青ボールペン）、赤鉛筆（赤ボールペン）
※1本になっているものは不可
- 消しゴム（よく消えるシンプルなもの） ※ 高学年は、修正テープも可
- 定規（15 cm程度で目盛が見やすいもの。折りたたみ式の定規は不可）
- ネームペン（油性フェルトペン）

【道具袋の中身】

- のり ○はさみ ○色鉛筆（クーピー可） ○セロハンテープ
- クレヨン・ブロック等（算数セットの一部）・折り紙 ～ 必要な学年

【時期や学習によって必要なもの】

- 三角定規（2年生以上）
- 国語辞典（3年生以上）
- 竹ものさし（校内備品で対応）
- コンパス（3年生以上）
- 分度器（4年生以上）
- 書き方鉛筆（2B～4B）

2. 学年で使用するノート

教科 学年	国語	算数	理科	社会
1 学年	一斉購入（1冊目） こくご10マス + 字リーダー入り 各自購入（2冊目から） こくご12マス + 字リーダー入り	一斉購入（1冊目） さんすう 14マス 各自購入（2冊目から） さんすう 17マス	1冊目は教材販売時に一斉購入 2冊目以降は、各自で購入 ○学年通信でいつから使用するか お知らせします。	
2 学年	こくご 15マス + 字リーダー入り 15mm10×15右開き	さんすう 17マス 12mm12×17左開き		
3 学年	10mm横罫 22行	5mm方眼罫 中心リーダー入り	5mm方眼罫 中心リーダー入り	5mm方眼罫 中心リーダー入り
4 学年	10mm横罫 22行	5mm方眼罫 中心リーダー入り	10mm横罫 22行	10mm横罫 22行
5 学年 6 学年	8mm横罫 27行	5mm方眼罫 中心リーダー入り	8mm横罫 27行	8mm横罫 27行

※マスや行が同等のも
のであれば、メーカーは
問いません。

3. 机上整理

※原則として、必要なもの以外は出さない。

- 筆箱は机の上に出さない。
- 鉛筆1～2本、青鉛筆、赤鉛筆
消しゴム、定規を出す。
- 教科書、ノートを出す。



4. 発表のしかた

- ① 挙手 … 肘を伸ばして、まっすぐに腕を上げる。
- ② 返事 … 指名されたら、「はい」と返事をしてから発表する。
- ③ 話し方、聞き方 … 教室の全員に聞こえる声で最後まではっきり話す。
相手の方を見ながら、話し終わるまで静かに聞く。
- ④ 言葉遣い … 語尾に「です」「ます」をつけて話す。
名前に「さん」をつける。
- ⑤ 呼名 … 教師が呼名する際は、「さん」をつける。

5. 座る姿勢



○足を肩幅くらい開き、足裏全体を床につける。

『あしは ペったん』

○椅子に深く座り、背筋をピンと伸ばす。

『せなかは ぴん』

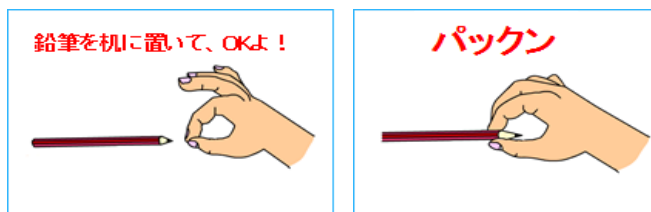
○お腹と机は、握り拳ひとつ程度空ける。

『おなかとせなかに
ぐう ひとつ』

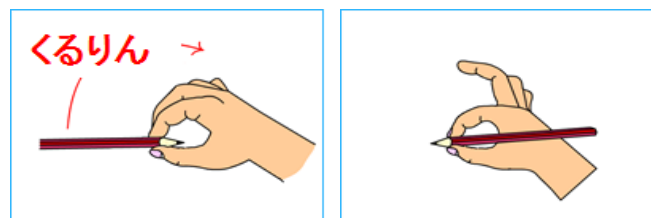
あしは ペったん
せなかは ぴん
おなかと せなかに
ぐう ひとつ
かみをおさえて
さあ かこう

6. 鉛筆の持ち方

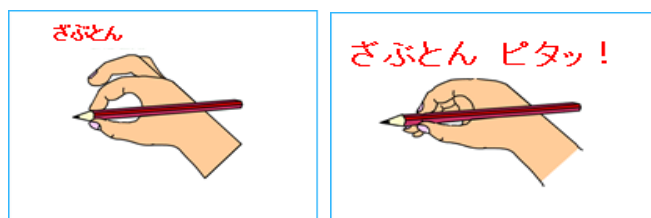
- ①削ってある部分の少し上を
親指と人差し指でパッケンとはさみます。



- ②鉛筆のはしを反対の手で持って
くるりと180°回転させて寝かせます。

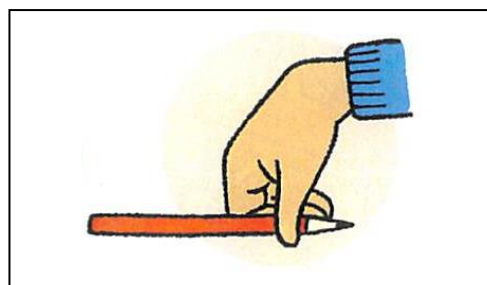


- ③中指を鉛筆にピタッとつけて
鉛筆の座布団にしたら正しい持ち方の完成。

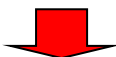
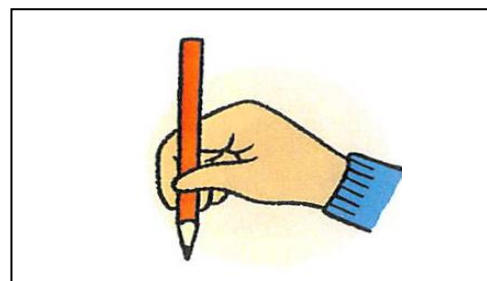


(教科書では)

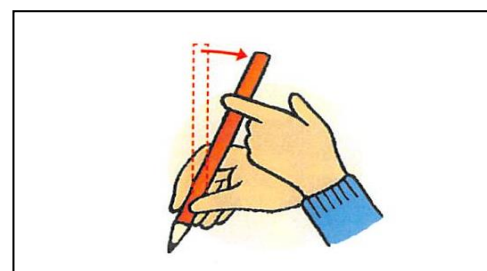
『えんぴつつつまんで』



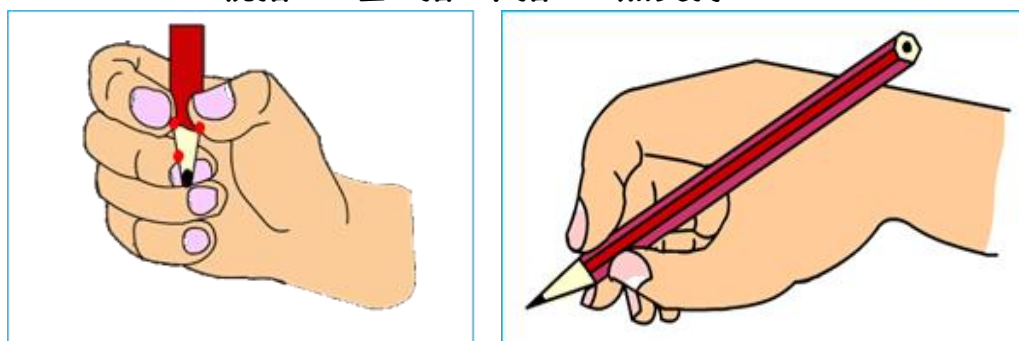
『もちあげて』



『すうっとたおして
なかゆびまくら』



親指・人差し指・中指の3点支持



※鉛筆の持ち方が悪いと、鉛筆の先が見えにくいので、姿勢を崩し横からのぞき込むようにして、鉛筆の先を見るようになります。常に児童の鉛筆の持ち方を観察し、必要に応じて繰り返し、鉛筆の持ち方を指導してください。

7. 家庭学習

- ウトナイ小学校家庭学習の手引きにもとづいて、宿題・自主学習に取り組む。
(家庭学習の目安の時間は、学年×10分+10分)
- 宿題・自主学習の頻度、内容については学年で統一する。
- 担任と家庭が連携し、児童が意欲的に取り組めるように工夫をする。
- 自主学習では、自分で課題(何のために学習するのか)を考え、学習に取り組み、どのような力が付いたかを振り返るように学習を進める。

令和7年度 家庭学習 具体的な取組

例

	何のために(ねらい)	何を(内容)	どのくらい(量)	どのように(児童)	指導とチェック(担任)	効果の検証
A 段階	基礎・基本の定着 学び直しの習慣の 定着	・漢字 ・数と計算 領域	〈低〉 B4 半分 ・半分は学び直しスペース 〈中〉 B4 1枚 ・表面は問題、裏に練習ス ペースまたはノートの活用	・月、火、木、金に配られた宿題 に取り組む ・問題を解いた後、間違いは練 習スペースにもう一度書き直す ・次の日に提出する	〈低〉保護者と答えを確かめ、提出後担任が内容の定着をチェックする 〈中〉児童が答えを確かめ、提出後担任が内容の定着をチェックする ・間違いがあったところは、プリントの練習スペースに書き直しや漢字 練習を行うように指示し、次の日までに提出させる。 ・学習内容の定着と学び直しができているかチェックの重点を置く。	単元テスト(漢字50問テスト や算数の数と計算領域の結果)
B 段階	基礎・基本の定着 時間を自己調整し て学ぶ学び方の定 着	・漢字 ・数と計算 領域	〈中〉B4 1枚×6日 〈高〉中学年と同じかそれ 以上 ※実態に合わせて量は学 年で検討してください。	・6日分の課題に取り組む計画 を立てる。 ・全て終わったら先生から解答 をもらって自分で丸付けをする。 ・振り返りを記入する。 ・終了次第提出する	・6日分の課題(計画・振り返りシート付き)を月曜日に配付する。 ・提出日までに、「①問題②丸付け③書き直し」まで行うことを指示 しておく。 ・担任は、提出のチェックと「計画・ふりかえりシート」をチェックし、取 組状況を把握する ・児童が反省を次に生かせるように、適宜助言する ※計画シートは別途提案(研修部)	単元テスト 家庭学習強化週間の取組状 況(Forms)
C 段階	目標を設定して学 ぶ学び方の定着	・目標に沿 って児童が 決定	・目標に沿って児童が決定	・担任から自主学習の取り組み 方を学ぶ。 ・取り組んだ課題を次の日に提 出する。 ・1週間の計画を計画シートに記 入し、次の月曜日に提出する。 ・タブレット学習日以外、継続し て取り組む。	・担任が4月に目標設定の方法や計画の立て方、次に生かす振り返 りの方法などメタ認知を働かせた学習方法を指導する。 ※指導の資料は研修部から配布 ・ノートを2冊用意してもらい、初めは、ノートを用いて学び方を習得さ せる(4月) ・提出されたノートの取り組み方をチェックし、次の日に返却する (児童同士の交流や1週間に1回は担任がチェックする、班ごとにチ ェックする日を決めるなども考えられる) ・取り組み方の定着が見られたら、学習に使用するものはノートに限 らない。目的に合わせて使い分けられるようにする。	家庭学習強化週間の取組状 況(Forms)

※タブレット宿題…原則水曜日。1～4年生は、学年で課題を出し児童が提出する。5・6年生は、e ライブラリの取組目標を設定し、児童が課題を選択して年間を通して取り組む。

※A段階～基礎基本の定着と学び直しの習慣を目指す段階 B段階～基礎基本の定着と時間を自己調整して学ぶ学び方の定着を目指す段階 C段階～目標を設定して学ぶ学び方の定着を目指す段階

※大事なことは、1年間を通してねらいとする姿に近づくことです。今年度は取組1年目なので、細かい部分については学年で話し合ってから決め、学年より等で保護者に周知して頂ければと思います。

学年の発達段階における取組のイメージ 例

〈別紙2〉

	1学期	2学期	3学期
1年	「漢字」「数と計算」の基礎・基本の定着 学び直す習慣の定着 【プリント宿題】月・火・木・金		
2年	「漢字」「数と計算」の基礎・基本の定着 学び直す習慣の定着 【プリント宿題】月・火・木・金		
3年	「漢字」「数と計算」の基礎・基本の定着 学び直す習慣の定着 【プリント宿題】月・火・木・金		時間を自己調整して学ぶ学び方の定着 【プリント宿題まとめ】（月～日）
4年	時間を自己調整して学ぶ学び方の定着 【プリント宿題まとめ】（月～日）	時間を自己調整して学ぶ学び方の定着 【プリント宿題まとめ】（月～日）	時間を自己調整して学ぶ学び方の定着 【プリント宿題まとめ】（月～日）
		目標を設定した自主学習 週 日	目標を設定して学ぶ学び方の定着 【自主学習】週 日
5年	時間を調整して学ぶ学び方の定着 【プリント宿題まとめ】（月～日）	時間を調整して学ぶ学び方の定着 【プリント宿題まとめ】（月～日）	目標を設定して学ぶ学び方の定着 【自主学習】週 日
	目標を設定して学ぶ学び方の定着 【自主学習】週 日	目標を設定して学ぶ学び方の定着 【自主学習】週 日	
6年	目標を設定して学ぶ学び方の定着 【自主学習】週 日		

※目標を設定して学ぶ学び方の定着の段階の中にある【自主学習】を週に何日するのかについては、学年の先生方で児童の実態等を考慮して決めます。

※あくまでイメージです。どれくらいの期間でどの段階を目指すのか等についても学年の実態を見ながら、1年間でねらいとする姿に近づけるよう学年の先生方で考えて決定します。

8. 持ち帰る物・置いたままでもよい物の目安

令和5年2月 ウトナイ小学校

◇ あくまで目安ですので、学習の内容によっては異なる場合もあります。学年通信でご確認ください。

学年	家に持ち帰る物	学校に置いたままでもよい物
1年生	・教科書 ノート(国語・算数) 筆箱 ・宿題、連絡帳 (音読カード・プリント等) ・給食セット	・(左記以外)教科書 ・国語や算数のスキル ・鍵盤ハーモニカ ・お道具袋(中身含)
2年生	・教科書 ノート(国語・算数) 筆箱 ・宿題、連絡帳 (音読カード、プリント等) ・給食セット	・(左記以外)教科書 ・国語や算数のスキル ・鍵盤ハーモニカ ・お道具袋(中身含)
3年生	・教科書 ノート(国語・算数・理科・社会) ・筆箱 ・宿題 ・給食セット	・(左記以外)教科書 ノート ・国語や算数のスキル ・鍵盤ハーモニカ・リコーダー ・お道具袋(中身含)
4年生	・教科書 ノート(国語・算数・理科・社会) ・筆箱 ・宿題 ・給食セット	・(左記以外)教科書 ノート ・国語や算数のスキル ・鍵盤ハーモニカ・リコーダー ・お道具袋(中身含)
5年生	・教科書 ノート(国語・算数・理科・社会) ・筆箱 ・宿題 ・給食セット	・(左記以外)教科書 ノート ・国語や算数のスキル ・鍵盤ハーモニカ・リコーダー ・お道具袋(中身含)
6年生	・教科書 ノート(国語・算数・理科・社会) ・国語や算数のスキル 筆箱 ・宿題 ・給食セット	・(左記以外)教科書 ノート ・鍵盤ハーモニカ・リコーダー ・お道具袋(中身含)
その他	◆ 教科書等でも必要に応じて学校に置く場合もあります。	◆ 家庭学習などで必要な場合は、持ち帰る場合もあります。

◇ つばさ学級(特別支援学級)については、一人一人の児童の状況に合わせて持ち帰りの道具を調整します。担任からの連絡をご確認ください。

◇ タブレットを持ち帰る場合には、各学年で重さや学習内容等を考慮し、持ち帰りの道具を調整します。

Ⅱ 生活規律

1. あいさつのしかた

- ① 自分から**進ん**でする。
- ② 相手にはっきりと**聞こえるような声**でする。
- ③ 相手の**顔を見**てする。
- ④ **立ち止ま**ってする。
- ⑤ **一礼**する。

※『教室移動』や『玄関を出入りする際』等、立ち止まってあいさつをすることが難しい場合は、『自分からする』ことができるようにします。

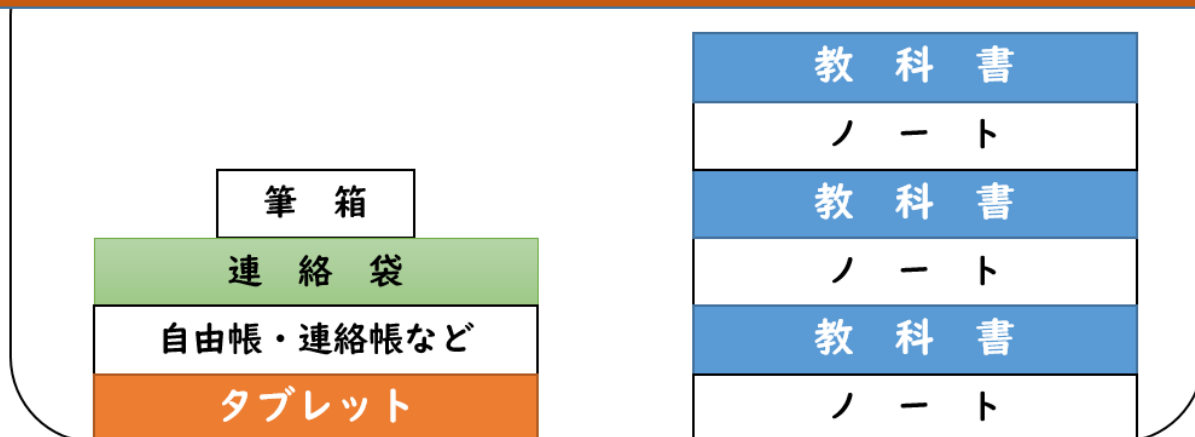
2. はきものの入れ方



- 水や汚れが下に落ちないように、トレイの深い方を手前にして入れる。
- 両方の靴をそろえ、奥までしっかりと入れる。

※学期の終わりには必ず靴箱清掃を行い、靴箱とトレイをきれいにする。

3. 机の中の整頓のしかた



- 右側に教科書とノート、左側に筆箱と連絡帳などを入れるのを基本とします。
上から、時間割の順に教科書とノートを入れるのが望ましいです。
- タブレットは、机から落とさないように左側の一番下に置きます。

4. カバンの入れ方



- ランドセルは背中合わせにして、金具を奥にして入れる。
- ランドセル以外のカバンについても、ランドセルの入れ方に準じて入れる。
- 鍵盤ハーモニカなどを入れる場合には、学年内で統一した入れ方をする。

5. 登校後の過ごし方(朝学習まで)

【上着や持ち物の整理と忘れ物のチェック】

- カバンを机の上に置き、上着などをフックにかける。
- 忘れ物がないか確認をし、教科書や筆入れなどを机の中にしまう。
※忘れ物に気付いたら担任に報告する。

【提出物】

- 提出書類などは担任が指定したところに出す。(そろえて)
- 集金などのお金は担任に直接手渡しをする。

【朝学習の前までの過ごし方】

- 朝学習の時間前にトイレ、水飲みを済ます。
- 8時5分までに席に着き、朝学習・朝読書の準備をして指示を待つ。

6. 朝学習・朝読書の過ごし方

【朝学習】

- 月・金は8時5分のチャイムが鳴ったら、朝学習に取り組む。
- 朝学習の時間には、基本的に廊下移動などはせず、教室で黙って課題に取り組む。

【朝読書】

- 水曜日は、朝読書の時間とし、担任がついて静かに読書をする。
- 保護者や担任による「読み聞かせ」を行うことも可。

【フッ化物洗口】

- 金曜日は、フッ化物洗口の時間とし、実施しない児童や早く終わった場合は、読書や他の課題に取り組む。

※朝学習・朝読書ともに、他の教室の迷惑になるような大きな音はたてない。

7. 準備（業間）の過ごし方

※休み時間ではなく、準備のための時間です。

【次の授業の準備】

- 前の時間の道具をしまい、次の時間の道具を出す。
- 忘れ物に気付いたら、休憩時間のうちに先生に報告する。
- トイレや水飲みを済ませる。

【周りへの配慮】

- 休憩時間中は、廊下で話さない。

8. 教室移動のしかた

- ① 机の上には物が散らかっていない状態にする。(次の時間の準備は可)
- ② 席を離れるときは、机に椅子を入れる。
- ③ 廊下では行きも帰りも静かに並んで歩く。(他のクラスに迷惑をかけない)
- ④ 廊下は、広がらずに右側を歩く。
- ⑤ 移動した先では、静かに待つ。
- ⑥ 移動中にお客さんや先生方と会ったときには、あいさつをする。

9. 給食時間の過ごし方

【準備中】

- 手洗い、トイレなどを済ませ当番など用事がない場合は席に着いて静かに待つ。
- 配膳は丁寧に行い、落としたりこぼしたりしないように気をつける。

【食事中】

- 嫌いなものでも、できるだけ一口は食べるよう心がける。無理強いはいしない。
- 大声で話したり、他人が不快に感じるような食べ方をしたりしない。

【後片付け】

- 皿や器は、食べ物が残らないようにして、丁寧に重ねる。
- 牛乳パックは、折りたたんで黄色い袋に入れる。
- 給食のワゴンや台の汚れもきれいに拭き取る。

10. 中休み、昼休みの過ごし方

- 廊下、階段は走ったり、飛び降りたり、遊んだりせずに静かに右側を歩行する。
- 体育館や1階ホールでのボールの使用は禁止。グラウンドでの使用の時も蹴らないで、ボールが道路に出ないように遊ぶ。
- 1, 2年生は休み時間に1階ホールで遊んでもよい。その際には走り回ったり、大騒ぎしたりせず静かに遊ぶ。
- 予鈴のチャイムが鳴ったら教室に入り、学習の準備を済ませる。

11. 各施設の利用のしかた

- 1階ホールは、廊下ではないので横切らない。
- 他の教室や特別教室には無断で入らない。
- 展望室には先生と一緒に入る。

12. 登下校のしかた

- 決められた通学路を通して登下校をする。
- 登校時間（7：50～8：05）を守る。早過ぎたり、遅過ぎたりしないように登校する。
- 下校時刻後は基本的に速やかに学校を出て、寄り道せずに下校する。用事があって下校時刻後に学校に残る場合は、必ず先生に許可をもらう。
- 登下校途中に忘れものをしたことに気がついて、安全のために家や学校に取りに戻らない。（帰宅後、学校に忘れ物をしたと気づいた時も同様。）

Ⅲ 教室環境

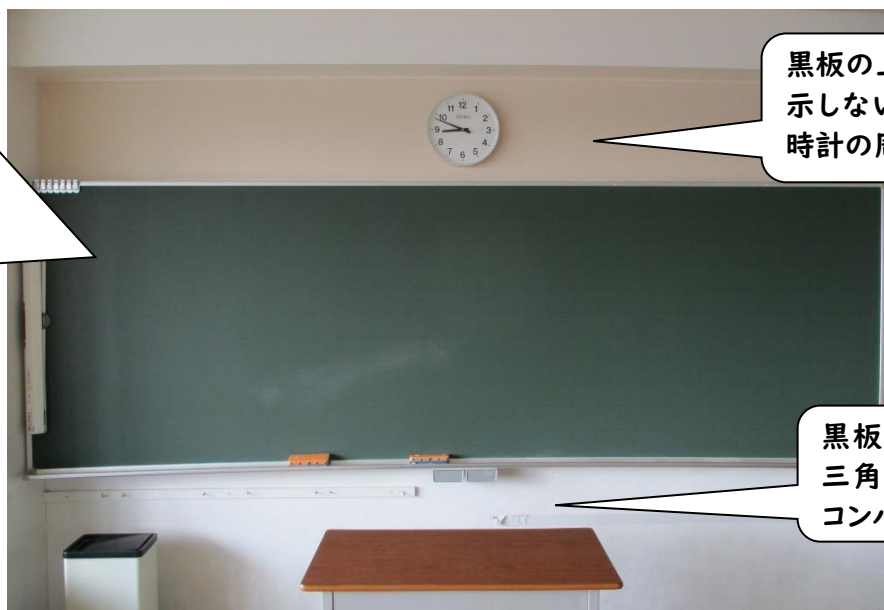
1. 黒板周辺

- 黒板周辺は、一番視野に入りやすいため、基本的に何も貼らずすっきりさせる。刺激量を抑え授業に集中できる環境をつくる。(ユニバーサルデザインの実践)

黒板は、全面が授業で使えるようにする

日付や日直表示等も側面黒板や黒板横掲示板を使う

(書画カメラ用スクリーンの設置は可)



黒板の上には、何も掲示しない(写真では、時計の周辺)

黒板下は、教師用三角定規、分度器コンパスのみ

2. 教室掲示

- 掲示物は、教室内の黒板横掲示板と側面及び背面掲示板に掲示する。

【掲示する物(例)】

○各教室で掲示するもの

「みんなのめあて」、「学級目標」、「日課表」、「時間割」、「日付日直表示」
「体育館割り当て表(低学年は、ホールも)」、「図書室割り当て表」
「生活目標」、「給食目標」、「給食献立」、「当番表」、「個人目標」
「学習の約束(研修部提案)」、「学年通信(週時間割)」等

○学年の発達や必要に応じて掲示するもの

「係活動掲示」、「1年間の歩み」、「誕生日掲示」、「家庭学習の取組」
「低学年向け学習規律関係」、「児童作品」等

※学年で統一した掲示物については学年内で話し合い、掲示場所や掲示期間を決めて掲示する。学年掲示板も積極的に活用する。

3. ロッカーの上、フック上の白い棚の整理

- 基本的に学級みんなで使用する物や児童の作品、学校に置いておくものなどを置くのに使用し、児童の衣服や帽子、手袋などは、カバンやロッカーに入れる。
- 整理整頓を心がけ、掃除の時間には拭き掃除なども行う。

4. 道具袋に入れる物・フックにかける物

○道具袋に入れる物

- ・はさみ ・のり ・色鉛筆(クーピー) ・セロハンテープ
- ・クレヨン、ブロック等(算数セットの一部)、折り紙 ~ 必要な学年

○フックにかける物

- ・帽子 ・上着など ・跳び縄 ・体育帽

※基本形として決めました。その他に入れたいものやかかけたいものがありましたら、学年で統一してください。

5. 整理整頓

- 整理整頓に気を配り、教室の床に物が落ちたままにしない。
- 机の中は空にして下校する。
- 一時的に子供たちの荷物や用具が増える場合は、学年で統一した整頓の仕方などを工夫する。

※彫刻刀やカッター、裁縫セット等の保管・管理については、学年の実態に応じる。単元終了後に持ち帰る。

IV 授業づくり

I. 授業準備

【単元を見通した準備】

①学習指導要領解説で単元の目標と指導事項を確認し、指導する内容を焦点化します。

この単元では、教科書を使って何を身に付ければよいかわかります。

C 測定	
C(1) 長さ、重さの単位と測定	
(1) 量の単位と測定に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	
ア 次のような知識及び技能を身に付けること。	
① 長さの単位（キロメートル(km)）及び重さの単位（グラム(g)、キログラム(kg)）について知り、測定の意味を理解すること。	
② 長さや重さについて、適切な単位で表したり、およその見当を付け計器を適切に選んで測定したりすること。	
イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。	
① 身の回りのものの特徴に着目し、単位の関係を統合的に考察すること。	
(内容の取扱い)	
(7) 内容の「C(測定)」の(1)については、長さの単位トン(t)について触れるとともに、接頭語（キロ(k)やミリ(m)）についても触れるものとする。	

②年間指導計画で指導時数と評価規準を確認します。

各単元をいつ、どのくらい時間をかけて学習し、どのように評価するのかを確認します。

第2学年までに、基となる比べ方を基にして広げやわかも同じように考えた
小学校学習指導要領解説 算数科

③単元の計画を立てます。

教師が「教えること・与えること」と子どもが「見出すこと・学び取ること」を明らかにして単元のゴールに向かう計画を立てます。

5年算数「帯グラフと円グラフ」単元シート

() 組 名前

【単元の目標】	
(1) 割合を表すグラフを使いこなそう。	
(2) 目的に合ったグラフを選び、データの特徴や傾向をつかもう。	
(3) テーマを設定して、統計的な問題解決にチャレンジしよう。	

【学習の流れ（10時間）】		※学びの自己評価◎○△	
	学習内容	教科書	自己評価
1	この単元では何ができるようになるのか？	P84	
2	学習の計画を立てよう。	～85	
3	帯グラフや円グラフを眺めて特徴を調べよう。	P85	
4	帯グラフや円グラフをかこう。	P87	
5	グラフからデータを読みとり、データの特徴や傾向をつかもう。	～89	
6	問題解決の方法を確かめよう。	P90	
7	解決したいテーマを決めよう。	P91	
8	統計的な問題解決の計画を立てよう。	P92	
9	データ収集の準備をしよう。	P92	
10	データを分析して、結論を出そう。	P93	
11	「たしかめよう」で学習の理解をたしかめよう。	P94	
12	「つないでいこう算数の目」でこの単元の見方・考え方を振り返ろう。		
13	単元テストで学習の定着を確かめよう。		

調べてみたいことやこの単元でがんばりたいこと

5年算数科「帯グラフと円グラフ」

6年理科「生き物のくらしと環境」学習計画

() 組 名前

【単元の目標】	
(1) 生き物と空気のかかわりについて、実験を通して調べよう。	
→ゴール1：実験ノートの提出	
(2) 食べ物をとおした生き物のかかわりについて、調査や実験を通して調べよう。	
→ゴール2：ワークシートの提出	
(3) 生き物と水のかかわりについて、資料で調べたり話し合ったりして考えよう。	
→ゴール3：たしかめように取り組み	

【学習の流れ（7時間）】			
	学習内容	教科書	学習材
全員	「どうして空気中の酸素はなくなるのか？」	P70	
全員	「植物は酸素を空気中に放出している？」	～80	
実験1	植物が酸素を出しているか調べよう	P78	実験道具
ゴール1 実験ノートを提出しよう！			
自由	「食べ物のもとをたどっていくと何に行き着く？」	P72	タブレット
調査1	人やほかの動物の食べ物のもとを調べよう	～73	本
自由	「生き物どうしに『食べるー食べられる』関係はある？」	P74	観察道具
観察1	動物の食べ物を調べてそのもとをたどろう	～77	タブレット
自由	「生き物どうしに『食べるー食べられる』関係はある？」	P74	観察道具
観察1	ダンゴムシの食べ物や小さな生き物を観察してみよう	～77	タブレット
自由	「生き物は水とどのようにかかわって生きている？」	P81	タブレット
生き物と水のかかわりについて調べたり、考えたりしよう	～84	本	
ゴール2 ワークシートを提出しよう！			
全員	「たしかめよう」に取り組み	P85	
ゴール3 「たしかめよう」に取り組み			

- 【発展学習テーマ例】
- ★生き物どうしの「食べるー食べられる」関係がおかしくなることはある？
 - ★水の中の小さな生き物には、他にどのようなかまがいがいる？
 - ★地球の中で「水」にかかわる問題は何か起きている？

6年理科「生き物のくらしと環境」

④本時の展開を考え、具体的な評価の方法と基準を定めます。

毎時間、目標に対して評価の ABC 基準を子どもの具体的な姿で設定することで、必要な指導や C の児童への支援を効果的に行うことができます。

6. 本時の評価

A	問題解決の目的に合わせて情報収集の方法や内容を決め、かつ整理・分析の方法も決めている。
B	問題解決の目的に合わせて情報収集の方法や内容を決めている。
C	問題解決の目的に合わせて、情報収集の方法や内容を決められていない。

5年算数科「帯グラフと円グラフ」6/10

⑤教材・教具の準備をします。

「先生が教えるための準備」と「子どもが学ぶための準備」をします。また、ICT を活用して子どもが自立して学ぶための環境づくりを行います。

2. 子どもが主語の授業

※子どもが主語の4つの共通取組場面を適切に設定します。

【見通す場面の設定】

- 単元の学習プラン等を示し、**時間と単元の流れ**の見通しをもてるようにします
- 単元の目標を示して、**何ができればよいのか**の見通しをもてるようにします。
- 単元のゴールを共有して**ゴールの姿**をイメージできるようにします。
- これまでに習った学習や身に付けたどんな力が使えるのか、**既習**とのつながりを考えられるようにします。
- 本時の課題を提示し、**1時間のゴール**の見通しをもてるようにします。

【決定する場面の設定】

- 多様な方法を提供・設定し、**課題解決の方法を選択**できるようにします。
- 学習形態を工夫し、**学ぶ相手や場所**を選択できるようにします。
- 支援が必要な児童が**必要な手立てをとれる**工夫や状況を設定します。
- e ライブラリの活用や発展学習の設定など、目標を達成した子どもが**さらなる課題に取り組める**ようにします。

【協働する場面の設定】

協働的な学びの実現には、

「①自立して学ぶスキル」「②協働して学ぶ良さを
実感」「③ICT 活用スキル」「④安心して学べる学級
風土」などが必要です。



①「自立して学ぶスキル」

○「何に着目し、どのように考えたのか」を意識し発問や指示を工夫し、**教科の見方・考え方を働かせる**ことができるようにします。

○表や図、思考ツール、アプリなどを活用し、**自分や友達の思考の流れが見えるようにして**、課題解決のための交流を深めます。

②安心して学べる学級の風土づくり

○誰とでも安心して学ぶことができる学級経営に努め、**互いにわからないことを聞いたり教えたりできる**ようにします。

③ICT 活用スキル

○「タブレット活用スキル表」をもとに、**学年に応じた ICT スキル**を身につけます。

○アプリの機能や特徴から活用場面を考えさせ、**目的に合わせて活用の場面やアプリを選択**して使用できるようにします。



④協働して学ぶ良さを実感させる

○説明や指示を必要最低限にし、自分の考えを**アウトプットする時間を多く設定**します。

○発問や課題を工夫し、**協働して学ぶ必要性**をもたせます。

○協働での意見整理を支援し、自分たちで考えて学ぶ経験を積み重ね、**自己存在感や自己有用感**をもてるようにします。

○自分の「学び方」を言葉や文に表して振り返り、**次の学びに生かせる**ようにします。

【振り返る場面の設定】

○振り返りの時間を十分に確保できるようにタイムマネジメントを行います。

○「①何ができるようになったか」「②どのように学んだか」「③何に活かせるか」「④次の学びをどうするか」を基本として、学習内容や学年に応じて振り返りの視点を与え、主体的な学びにつなげます。

○ICT や振り返りシートを活用して、継続して振り返りができるように環境を整えます。

3. 板書の基本

目的に合わせて、板書を効果的に使い分けます。

板書の目的

◎本時の学習内容が分かり、児童の振り返り等で活用すること

◎子どもの意見や考えを可視化すること

◎子どもが自立して学べるような環境を整えること

○日付と教科書のページを書きます。

○本時の課題は「青チョーク」、まとめ・振り返りは「赤チョーク」で上下に線を引きます。

○マグネットを使って学習の流れが分かる板書にします。

○ノートの字数に合わせた板書をします。(低学年)

○ICTを活用して、板書とICT機器を適宜使い分けます。必要な資料は印刷して黒板に貼り、学習の流れが残るようにします。

○学びを委ねる時間は、「課題」「学習の流れ」「学習方法」「見方・考え方」「時間」「既習事項」など、子どもたちが自立して学ぶために必要な情報を板書します。



2. 【ICT の効果的な活用】タブレット活用スキル表

各学年で習得できるタブレットの活用スキルです。各教科で効果的に活用していきます。

資質・能力 発達段階	情報の収集				情報の発信・伝達								個別学習		協働学習				
	写真を撮る	動画を撮る	Teams内のデータやアップロードされたものの閲覧	ネット検索	写真を用いた発表	動画を用いた発表	Teamsにデータをアップロード	Formsの回答	ローマ字入力	Wordで文書の作成	Power pointでスライドの作成	Canvaでスライド・文書の作成	eライブラリ	デジタル教科書	写真を用いた話し合い	動画を用いた話し合い	Padletで意見交流	Word Powerpointの協働編集	Canvaの協働編集
																			
1年生	○	○	○		○		○	○					○	○	○	○			
2年生	○	○	○	○ (文字入力)	○	○	○	○					○	○	○	○			
3年生	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○			
4年生	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○		
5年生	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6年生	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
つばさ学級	○	○	○		○		○	○					○	○	○				

※発達段階における、最低限のタブレット活用スキルです。1年間の中で、表に示されているスキルを習得できるよう各教科での効果的な活用を実践してください。（令和6年度作成版）

【参考】北海道教育大学付属函館小学校

1. タブレット使用の約束

- ①先生からの許可なく勝手にタブレットを保管庫から出したり、使ったりしてはいけません。
- ②こわさないようにていねいにとりあつかいましょう。不注意やわざとこわした場合には弁償の場合もあります。（タブレットを持ち歩くときは、かならず両手で持ち、よそ見をしないで走らずに運びましょう。）
- ③つくえの中では、すべりにくいように一番下に入れ、出し入れのときにも注意しましょう。
- ④先生の指示があるまでタブレットを使用しません。
- ⑤タブレットは学習用です。学習以外に使ってはいけません。タブレットの画面やアイコンを勝手に変えてはいけません。
- アプリのダウンロードは先生が許可したものの以外は禁止です。
- ⑥勝手な書き込みや発信は絶対に禁止です。あなたの書き込みはみんなが見ています。



2. 【家庭】タブレットを持ち帰る場合

- eライブラリ^{いがい}以外^{しょう}は使用しません。
- インターネットにはつなぎません。
- 次の日^{つぎ}に必^ひず^{かなら}タブレット^もを持^もってきます。
- 持^もち帰^{かえ}った充^{じゅう}電^{でん}器^きは次の日^{つぎ}に必^ひず^{かなら}持^もってきます^{しょう}。

3. タブレット端末の破損・紛失で修理費等を求める場合

利用者等の故意（わざと）及び重大な過失（予見や防止が可能だった不注意等）による破損・故障・紛失等が生じた場合とする。

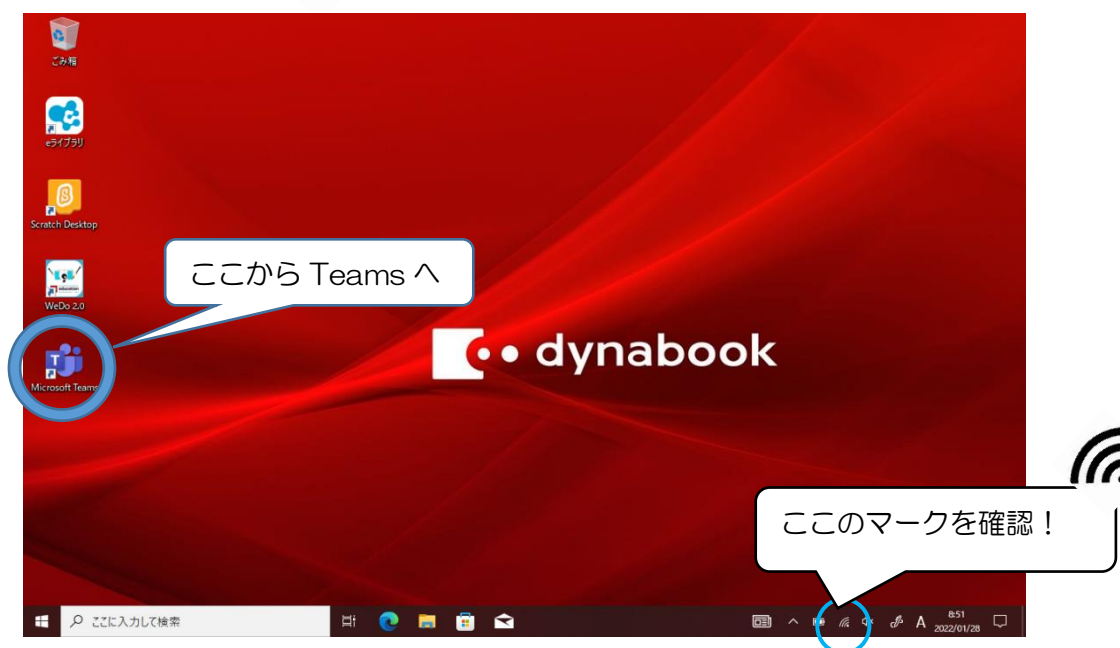
- 例**
- ・ 端末を投げる、叩く、ペン先で突く等で生じた物理的破損
 - ・ 教員の指示にない操作により生じたシステム不具合
 - ・ 端末を持ち帰った際に、火気の近くや高温になる場所などでの使用又は保管による破損
 - ・ 端末を持ち帰った際に生じた紛失 など

苫小牧市教育委員会作成「令和５年度版ＩＣＴ活用ハンドブック」より引用

4. オンライン朝の会 (Teamsの会議機能を使う)

①タブレットを開いて、サインインアカウントとパスワードを入^{にゅうりよく}力^{ひら}します。(Teams^{よう}用のアカウント、パスワードです。)

②デスクトップ^{がめん}画面^{さいしよ} (最初の画面^{がめん}) が開いたら、右下の^{みぎした} wi-fi (接続^{せつぞく})  アイコンをクリックし、自宅^{じたく}の wi-fi機器^{きき}に接続^{せつぞく}できるように設定^{せってい}する。接続^{せつぞく}すると、アイコンが  になります。



③ネット^{せつぞく}接続^{かくにん}が確認^{かくにん}できたら、Teams をクリックして^{かいぎ}会議^{かいぎ}に入れるようにしてください (オンライン朝^{あさ}の^{かい}会^{じゅぎょう}や授^お業^{ぎょう}が終わったら、すぐに退出^{たいしゅつ}してください)。



苫小牧市立ウトナイ小学校
『学習規律・生活規律・教室整備・授業づくり』指導ガイド
～ ウトナイスタダード ～

平成31年3月 ウトナイスタダードとして改訂
令和7年4月 令和7年度版として改訂

参考 ・拓進小学校「学習規律・生活規律」指導ガイド
・沼ノ端小学校 学習規律一覧
・ウトナイ小の教育